

全国知事会・新型コロナウイルス緊急対策本部会議  
～蒲島知事発言 8月20日～

本県では、8月13日以降、1週間の新規感染者数が千名を超える状況が継続し、直近では1,500名を上回っています。

これは、全国と同様に、第4波を大幅に上回る状況であり、現在、まん延防止等重点措置において取り得る最大限の対策に取り組んでいます。

このような中、本日は3点発言させていただきます。

1つ目は、県境を越える移動についてです。

これまで、私自身も全国知事会からも繰り返しメッセージを発しています。

しかしながら、未だに県外由来の新規感染者が後を絶ちません。

特定の地域で感染を抑え込んだとしても、流行地域との往来が続く限り、全国的な感染拡大に歯止めをかけることができません。

これに関しては、全国知事会と国が、メディアなどを巻き込み、東日本大震災時と同様の危機感を共有し、国民に届く強力なメッセージを発信し続ける必要があると考えます。

2つ目は、子どもの感染防止対策についてです。

子どもの感染が増加する中で、もうすぐ夏休みが終わろうとしています。

小学校や保育所、放課後児童クラブなどは、ワクチンが接種できない12歳未満の子どもが集まる場です。

同様に、休業などが難しいことから、感染防止対策について、今一度、徹底する必要があります。

また、感染による甲子園の出場辞退など、痛ましい出来事も起きていることから、中学生、高校生の部活動等における、統一的な対策が必要です。

加えて、小学生等の保護者など、子育て中の方々に、集中的にワクチンを接種していただくことも、とても効果的だと思います。

そのため本県では、私自らテレビコマーシャルに出演し、こういった方々へ、ワクチンの接種を呼びかけています。

国においては、こういった取組みや、有効な感染防止対策に関する最新の情報を示していただきたいと思えます。

3つ目は、ワクチンの配分についてです。

現在、本県の接種率は、1回目が58%、2回目45%であり、全国的にも高い状況です。

しかしながら、国の方針転換により、第13クール以降の基本枠の配分量が、激減しました。

せっかくスピーディーに接種できる能力を持っているにも関わらず、既に予約の一時停止など、急ブレーキをかけた自治体もあります。

ワクチンの量に限りがあることは承知しています。

国には、各地域の接種能力等も勘案し、戦略的な配分をお願いしたいと思えます。